

特別講演

演題名

マネジメントとしての感染対策

講演者

渋谷 寧

所属

横浜市立みなと赤十字病院 感染症科・TQM 部 部長

抄録

感染症は人類の健康を脅かす疾患であるだけでなく、社会構造や経済、さらには組織の在り方そのものを変えてきた。ペストやスペインかぜのパンデミック、HIV/AIDS がもたらしたスティグマ、そして SNS 時代に出現した COVID-19 によるインフォデミックは、目に見えない微生物が社会へ及ぼす影響の大きさを改めて示した。一方、抗菌薬の登場により細菌感染症は克服されつつあると楽観視された時代もあったが、悪魔の耐性菌と呼ばれた MRSA による院内感染を皮切りに、広域抗菌薬にも耐性を示す多剤耐性菌は医療機関のみならず地域社会へも拡大し、世界的な脅威となっている。感染症は医療だけの問題ではなく、社会、経済、教育、政治など多方面へ影響を及ぼす課題であり、その対応には感染症学や臨床微生物学に加え、組織全体を俯瞰したマネジメントの視点が不可欠である。

感染対策の成否は、微生物学的知識や感染制御技術だけで決まるものではない。組織の理念と目標を共有し、それを実現する戦略を策定し、現場で実践可能な戦術へ落とし込み、多職種が同じ方向を向いて行動できる組織文化を醸成することが重要である。病院内にとどまらず、地域医療、行政、さらには国際社会までを見据えたマクロな視点と、個々の医療現場におけるミクロな視点を統合し、感染対策を組織マネジメントとして捉え直す必要がある。

本講演では、感染対策を組織マネジメントとして位置づけ、リーダーシップ、ガバナンス、多職種協働、人材育成、危機管理に加え、行動経済学や交渉学など人の意思決定や行動変容に関する知見も交えながら考察する。感染対策を単なる「感染を防ぐ活動」にとどめず、医療安全、医療の質、病院経営を支える組織マネジメントとして再定義し、組織の信頼と価値を創造するための実践的な視点を提示したい。